

令和5年度 デザイン環境学科 専門科目 シラバス

科目名	情報・統計処理 Informatics/Statistical Processing	単位数	1
		必選区分	必修
開講学科	デザイン環境学科（1年後期）[岐阜学関連科目]	科目区分	演習
担当者	神谷 勇毅	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	<p>統計学の基本的な概念を学ぶとともに実際の運用の場面での使い方を学ぶ。具体的には基本統計量、記述統計・推測統計の違い、正規分布、検定等とその応用を学習する。 統計の基礎について学び、演習を通じて、情報分析力と統計手法、データ活用の方法を身につけることを目的とする。</p>		
授業概要	<p>最初に、表計算ソフトの利用法について学ぶ。次に、様々な情報を客観的に記述、解釈するための手段である統計の基礎について学び、その分析手順を修得する。次に、学んだ知識を使い、データ収集と収集したデータの分析を行う。実験的な演習・分析や、地域（岐阜）に関する実際のデータ（政府の公的統計など）の分析を通じて、学んだ知識の定着を行う。最後に、データサイエンスやAIに関する文献調査をし、プレゼンテーションによる発表を行い、お互いの発表を聞くことで、この分野に関する知識を深めるとともに、視野を広げる。 【SDGs：4, 9】 【岐阜学関連の授業回：⑪, ⑫, ⑬, ⑭, ⑮】</p>		
授業計画	<p>① ガイダンス、アンケート調査と身近にある統計 ② 表計算ソフトの利用方法（関数、グラフ作成） ③ データビジュアライゼーション、データ分析ツール ④ 代表値とばらつき、クロス集計 ⑤ 偏差、ヒストグラム ⑥ 四分位法、箱ひげ図 ⑦ 相関分析、回帰分析 ⑧ 統計的仮説検定（1） ⑨ 統計的仮説検定（2） ⑩ 統計的仮説検定（3） ⑪ 統計処理演習（1）データの収集と分析 ⑫ 統計処理演習（2）データの分析とまとめ ⑬ 統計処理演習（3）発表 ⑭ 統計処理演習（4）発表、データサイエンスとAIの関連 ⑮ 統計処理演習（5）発表、総括とまとめ ⑯</p>		
予復習等	<p>【予習】ガイダンスや毎回授業中に指示する。 【復習】講義内容を復習しながら、授業中に指示する課題等に取り組むこと。</p>		
評価方法	平常点15%、課題および授業内試験85%		
履修条件	なし。		
教科書	なし、授業内で資料配布を行う。		
参考書	『Excelデータ分析の教科書』、日花弘子著、SBクリエイティブ株式会社出版		

科目名	色彩学 Color Science	単位数	2
		必選区分	必修
開講学科	デザイン環境学科（1年前期）【他学科専門科目】	科目区分	講義
担当者	加藤 祥子	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	<p>本授業では、グラフィック、ファッション、インテリアを含む広いデザイン領域において不可欠な色彩に関する知識を学習し、配色計画に関する基礎技能を身につける。色は生活の中でさまざまな役割を果たす。色の見え方についての理解を深めるとともに、色彩検定3級に相当する基本的かつ実践的なカラーコーディネート能力を修得することを旨とする。</p>		
授業概要	<p>まず、色の働きや目の仕組みに関する科学的な基礎知識を確認し、色の分類と三属性などの表色系について学んだ後、色によって生じる心理効果と視覚効果および配色とその調和について理解を深める。また、ファッションとインテリアを中心とした実際のデザインにおけるカラーコーディネートの方法と色彩心理について学習する。配色技法など講義形式での理解が困難な内容に関しては演習型の課題を補助的に使用し、理論と実践の両面からの学習形態をとる。 【SDGs：9, 12】</p>		
授業計画	<p>① ガイダンス：色のはたらき ② 光と色：色はなぜ見えるのか？／眼のしくみ／照明と色の見え方 ③ 光と色：混色 ④ 色の表示：色の分類と三属性／PCCS ⑤ 色彩心理：色の心理効果／色の視覚効果 ⑥ 色彩調和：配色の基本的な考え方／色相・トーンを手がかりにした配色 ⑦ 色彩調和：色相とトーンを組み合わせた配色／配色の基本的な技法 ⑧ 配色イメージ ⑨ ファッションと色彩：ファッションのカラーコーディネート／心理効果 ⑩ インテリアと色彩：インテリアのカラーコーディネート／心理効果 ⑪ JIS慣用色名 ⑫ 色彩効果の実践学習：カラーダイヤル作成 ⑬ 色彩効果の実践学習：配色演習1（ファッション） ⑭ 色彩効果の実践学習：配色演習2（インテリア） ⑮ 社会における色彩計画 ⑯ 自学科学生：定期試験／他学科学生：レポート提出</p>		
予復習等	<p>【予習】教科書を事前に読んでおくこと 【復習】授業時に示した演習課題について、指定された期日までに提出すること</p>		
評価方法	<p>【自学科学生の場合】定期試験・課題：70%、提出物・受講態度：30% 【他学科学生の場合】レポート・課題：70%、提出物・受講態度：30%</p>		
履修条件	実践学習には、日本色研/新配色カード199aが必要		
教科書	「色彩検定公式テキスト3級編」編：色彩検定協会、出版：A・F・T企画		
参考書	授業内で紹介する		

科目名	美術・デザイン史 History of Art and Design	単位数	2
		必選区分	必修
開講学科	デザイン環境学科（1年前期）【他学科専門科目】	科目区分	講義
担当者	坂本 牧葉	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	古代から現代までの美術・デザインの歴史について学ぶ。本講義では時系列で、各時代の美術・デザインの様式や作家・デザイナーの作品紹介・解説する。各時代の代表的な作品、手法、思想を理解し、時代背景と、ものづくりとの関連性への理解を深める。したがって到達目標は、各時代の代表的な美術・デザイン分野の制作物、制作者、手法、思想についての知識・関心を身に付けることである。		
授業概要	オンデマンドの形式で行う。会議システムにアップロードされる講義動画と資料を週に1回、参照し、各自で課題に取り組む。講義では各時代の美術品やプロダクト、画家やデザイナーなどの制作物を紹介し、制作背景や手法などの解説する。各回は復習プリントを配付・解答し、学習内容の確認を行う。質問等は随時募集し、解説や回答をする。最終回の筆記試験の他、途中1回程度のレポート課題を予定している。 【SDGs：12】		
授業計画	① インTRODakション、古代ギリシャ・ローマ（1） ② 紀元前-10世紀 古代ローマ（2）、ビザンティン ③ 12-13世紀 ゴシック、ロマネスク、中世ヨーロッパ（仏・英・伊） ④ 14-15世紀 ルネサンス（1）（伊・蘭） ⑤ 15-16世紀 ルネサンス（2）（伊・独） ⑥ 17世紀 バロック（伊・蘭・仏） ⑦ 18世紀中葉 ロココ、新古典主義、写実主義（仏・英・伊）、レポート課題 ⑧ 18世紀末 新古典主義、ロマン主義（仏・西）、産業革命の始まり ⑨ 19世紀 象徴主義（1）、アール・ヌーヴォー、ジャポニズム、分離派 ⑩ 19-20世紀 象徴主義（2）、印象主義、ドイツ表現主義 ⑪ 20世紀 未来派、エコール・ド・パリ、立体派、ロシア構成主義、バウハウス、デステイ ⑫ 20世紀 シュルレアリスム、抽象表現、ポップアート、ダダイズム、アールデコ、機能主 ⑬ 20世紀 第二次世界大戦後のデザイン（北欧、独、仏）および近代・現代のアート ⑭ 20世紀 第二次世界大戦後から平成初期の日本、欧米 ⑮ 21世紀 平成初期から現代までの日本、欧米 ⑯ 定期試験		
予復習等	【予習】参考書の該当箇所の精読 【復習】配布資料の読み直し、参考書の該当箇所の精読		
評価方法	【自学科生の場合】定期試験：80%、レポート20% 【他学科生の場合】最終レポート：80%、レポート20%		
履修条件	なし		
教科書	なし		
参考書	美術出版社「増補新装 カラー版 世界デザイン史」、美術出版社「増補新装 カラー版 西洋美術史」		

科目名	ファッションデザイン概論 Introduction to Fashion Design	単位数	2
		必選区分	必修
開講学科	デザイン環境学科（1年前期）	科目区分	講義
担当者	下川 美都子	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	ファッションデザインとは何か。ファッションデザインにおける意義・重要性・役割、さらに影響などを学生自ら考察することが本授業の目的である。また、学生が、人と衣服、社会とファッションの関わりをデザインの視点から研究し、時代の変遷と共に変容していったデザインの位置づけ、消費社会の特徴やデザインの価値を理解していくことを到達目標としている。学外授業では、展覧会などを視察し、現在におけるファッションデザインの多様性と可能性を学ぶ。（※美術展等の開催時期により、授業計画が移動する場合がある。）		
授業概要	【担当者の実務経験：アパレル企業でファッションデザイン製作に携わり、小売業でコーディネーターなどを務め、ファッションデザインを消費者に提供する活動を行なった経験あり】 本授業では、ファッション・インテリア・ビジュアルなどの広義なデザインの中から、特にアパレルファッションデザインに焦点をおき、社会や文化から影響されたデザインや流行、産業の変遷と共に誕生・変容したデザインの特徴などを、学生自ら考察・研究して理解を深める授業である。授業の前半は、ファッションデザインの様々な定義を認識し、デザインと社会・文化・流行などの関係を考察する。後半では、近代ファッションにおけるオートクチュールの誕生から現在に至るまで、デザイナー達が手掛けたファッションデザインを学生自ら研究し、FD、ID、VD分野の視点からデザインの価値や理解を深めてもらいたい。 【SDGs：5,9】		
授業計画	① なぜ服を着るのか 衣服の意義、デザインの定義・分類 ② ファッションデザインの要素と定義 ③ 近代デザインの歩み ④ 近代ファッションデザインの歩み ⑤ ファッションと流行の関わり ⑥ ファッションと社会・文化の関わり ⑦ ファッションと色彩の関わり ⑧ ファッションと世代の関わり ⑨ 若者ストリートファッションの変遷 ⑩ 美術展見学 ⑪ ユニバーサルデザイン、サスティナブルデザイン ⑫ プレゼンテーション 身体性とデザイン（ポアレとヴィオネ等） ⑬ プレゼンテーション 産業とデザイン（シャネルとディオール等） ⑭ プレゼンテーション 構成とデザイン（三宅一生と川久保玲等） ⑮ プレゼンテーション アートとデザイン（アンディ・ウォーホル等）/まとめ		
予復習等	【予習】各回の授業テーマにおいて、本や情報などの調査をしておくのが望ましい。 【復習】本・情報などで自主的に研究・考察して、より充実した研究内容にすること。		
評価方法	受講態度20%、グループ研究と発表50%、研究レポート30%		
履修条件	衣料管理士必修。外部の催事・美術展の見学は交通費（有料の場合は入場料）が必要。		
教科書	文化ファッション体系『服飾デザイン』文化出版局		
参考書	北山晴一『衣服は肉体に何を与えたか』朝日新聞社、鷺田清一『ひとはなぜ服を着るのか』ちくま文庫、実川元子『ココ・シャネル』理論社等、講義にて紹介する。		

科目名	建築・インテリア概論 Introduction to Architecture/Interior Design	単位数	2
		必選区分	必修
開講学科	デザイン環境学科（1年前期）【他学科専門科目】	科目区分	講義
担当者	加藤 祥子	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	生活環境の基盤となる建築とは何か、建築家とは何かを考え、家具からインテリア、庭を含めた空間のあり方について考える。建築・インテリアの歴史を学び、現在に至る変遷を理解する。用途別にみた建築の種類を整理し、建築が供給されるシステムから社会的にみた建築を位置づける。家具の種類や素材、構成を学び、建築とインテリア、家具との関わりを考える。		
授業概要	建築・インテリアについて、幅広い観点から考察できるよう様々なテーマを設定する。建築・インテリアの発生から現代に至る歴史を学ぶ。近代以前の建築は共通する特徴で区別される様式に則って建てられた。その様式の特徴と流れを学ぶ。また、現代のインテリアから受ける印象の共通言語として用いられるインテリアスタイルについて、その種類と特徴を把握し、デザイン上の留意点を学ぶ。さらに、建築・インテリアを計画する上で配慮すべきユニバーサルデザインやサステイナブルデザインなどの社会的事項についても取り上げる。また、建築の需要と供給に影響を及ぼす政策を取り上げ、現代社会における建築のあり方について考える。 【SDGs : 3, 7, 9, 11, 12, 13, 15】		
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ① 建築・インテリアの歴史（西洋） ② 建築・インテリアの歴史（日本） ③ インテリアスタイル ④ 建築の役割と種類 ⑤ 建築と建築家（1） ⑥ 建築と建築家（2） ⑦ 建築と家具 ⑧ 家具の歴史（1）古代から近代まで ⑨ 家具の歴史（2）近代から現代まで ⑩ 建築・インテリアの色彩計画 ⑪ 建築・インテリアのユニバーサルデザイン ⑫ 建築・インテリアのサステイナブルデザイン ⑬ ストック形成の住宅政策 ⑭ 建築とランドスケープ ⑮ 建築と庭 		
予復習等	【予習】一部の授業では、事前の下調べを指示する。 【復習】各テーマに対する理解を深めるための復習を行うこと。		
評価方法	【自科学生の場合】出席状況・授業態度30%、レポート・提出物70% 【他科学生の場合】出席状況・授業態度30%、レポート・提出物70%		
履修条件	なし		
教科書	適宜、資料を配布		
参考書	適宜、資料を配布		

科目名	ヴィジュアルデザイン概論 Introduction to Visual Design	単位数	2
		必選区分	必修
開講学科	デザイン環境学科（1年前期）【他学科専門科目】	科目区分	講義
担当者	宮川 友子	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	学生がヴィジュアルデザインの領域における世界観を理解し、古今東西の具体的な事例やその観点、背景を知り、全体的な概要を掴むことを目的とする。その中で、鑑賞・ディスカッション・簡単な演習を通じて、興味・関心を高め、それらをもとに自分らしい考えを持ち、言語化できることを目標とする。		
授業概要	【担当者の実務経験：デザイン事務所にてグラフィックデザイン業務の従事経験あり】 ヴィジュアルデザインの分野において、教養となる重要な歴史的事項や、現代のデザイナーとその作品や活動についてを知る。講義の間に簡単な演習も交えながら、視覚的なコミュニケーション力や論理的思考を身につける。アートとデザインの違いやその周辺について理解し、作品や課題の制作、将来における活動に活かせるようにする。毎回の小レポートをふまえたフィードバックにより理解を深める。 【SDGs : 9, 12, 16】		
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ① オリエンテーション ② 論理的にもものを見ることについて ③ 絵を言葉で説明する ④ 視覚言語と世界のヴィジュアルコミュニケーション ⑤ ピクトグラムや絵文字などについて ⑥ オリンピックのデザイン ⑦ 日本のデザイナー（1） ⑧ 日本のデザイナー（2） ⑨ 世界のデザイン史（1） ⑩ 世界のデザイン史（2） ⑪ デザイン関連図書の紹介と図書館の利用 ⑫ インターネットの歴史 ⑬ ポスター史と世界のポスター展 ⑭ デザインにおけるお金と権利について ⑮ ヴィジュアルデザインと地域とのコミュニケーション ⑯ 		
予復習等	【予習】授業終了時に示した教科書の該当ページを事前に読んでおくこと。 【復習】授業時に示した課題について、授業時間外の制作を経て指定の時期までに提出すること。		
評価方法	【自科学生の場合】毎回の小レポート70%、最終レポート20%、出席状況・受講態度10% 【他科学生の場合】毎回の小レポート70%、最終レポート20%、出席状況・受講態度10%		
履修条件	なし。		
教科書	なし。		
参考書	授業内で適時紹介する。		

科目名	材料学 Material Science	単位数	2
		必選区分	選択
開講学科	デザイン環境学科（1年前期） 【他学科専門科目】 【岐阜学関連科目】	科目区分	講義
担当者	太田 幸一	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	日常生活で幅広く用いられている各種材料について、その種類、特性、用途などについて習得することを目的とする。 金属／無機／有機材料種類や製造工程、性質、用途を理解し、デザインの各分野において各種材料を適切に選択使用し、目的に合ったデザインができるようにすること、環境に配慮した材料選定をできるようにすることを目標とする。		
授業概要	【担当者の実務経験：公設試で繊維材料・複合材料に関する中小企業向け指導・相談・依頼試験業務に従事】 人間は古くから、木、土、鉱物など、そのままの状態では有効活用が難しい各種物質を、熱や化学変化などの力を用いて様々な形態に加工することで、利用価値の高い材料として日常生活に用いてきた。この講義ではデザインの分野で用いられる各種材料を中心に、材料の種類や性質、加工方法などを学ぶ。また、材料に関する知識の応用として、岐阜で生産されている製品に用いられる材料について、その歴史と材料固有の特性を理解する。 【SDGs：9, 12】 【岐阜学関連の授業回：⑩～⑮】		
授業計画	① 材料の分類 ② 材料の性質 ③ 金属材料（1）鉄鋼 ④ 金属材料（2）非鉄金属 ⑤ 無機材料（1）石材・宝石 ⑥ 無機材料（2）セラミックス ⑦ 有機材料（1）天然繊維・木材 ⑧ 有機材料（2）化学繊維・プラスチック ⑨ コンクリートと複合材料 ⑩ 岐阜と材料の関わり ⑪ 岐阜の材料（1）岐阜の金属—関の刃物・刀剣— ⑫ 岐阜の材料（2）岐阜の陶磁器—美濃焼— ⑬ 岐阜の材料（3）岐阜の木材加工—飛騨の木工・大垣の升— ⑭ 岐阜の材料（4）岐阜の繊維製品—岐阜のテキスタイル・美濃和紙— ⑮ 材料と地球環境 ⑯ 期末試験（記述式 持ち込み不可）		
予復習等	【予習】解説予定の素材や特性について、日常生活での使用形態について確認しておく。 【復習】毎回配付される資料について、講義中解説した重要項目について復習する。		
評価方法	【自学科生の場合】出席状況・受講態度20％、期末試験80％で、総合判定する 【他学科生の場合】出席状況・受講態度20％、レポート課題80％で、総合判定する		
履修条件	なし		
教科書	毎回講義内容の概要を記した資料を配布する。		
参考書	『わかりやすい材料学の基礎』／菱田博俊／成山堂書店『繊維材料にフォーカスした生活材料学 新版』／榎本雅穂、古濱裕樹編著／アイケイコーポレーション		

科目名	日本建築史 History of Japanese Architecture	単位数	2
		必選区分	選択
開講学科	デザイン環境学科（1年前期） 【岐阜学関連科目】	科目区分	講義
担当者	畑中 久美子	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	建築の成立と発展過程の歴史を社会や生活と求められる時代の空間、自然 環境、外部との関係を通して理解する。 本講義では、日本建築史を中心に、各時代の建築意匠に注目し、建築の歴史の変遷の流れを把握することを目的とする。		
授業概要	【担当者の 実務経験：建築事務所にて住宅や公共施設などの設計業務に従事した経験あり。】 縄文・弥生時代の建築から、時代を追って城郭建築までの日本建築を教科書とスライド用いて解説しながら学んでいく。座学で学んだことを実物とおして確認するため、近隣の日本建築の見学へ数回赴いて空間体験を行う。見学前は担当者を決めて、見学する建築の下調べをおこない、発表することで情報共有を行う。建築の鑑賞の仕方を身につけることも目的としている。 【SDGs：4・5・11・12・13・15】 【岐阜学関連の授業回：⑩】		
授業計画	① ガイダンス、日本建築の基本構成とその名称 ② 古代 ③ 飛鳥～奈良時代の建築 ④ 古代の都城建築と宮殿建築 ⑤ 神社の成立とその形式 ⑥ 見学 ⑦ 密教建築と浄土教建築 ⑧ 大仏様と禅宗様 ⑨ 見学 ⑩ 寝殿造と書院造 ⑪ 茶室と数寄屋建築 ⑫ 城郭建築 ⑬ 見学 ⑭ 民家 ⑮ レポート講評および復習 ⑯ 定期試験		
予復習等	【予習】見学予定の建物を下調べしておくこと。 【復習】授業で理解できなかった箇所を文献等で調べておくこと。		
評価方法	出席状況・授業態度30％、レポート・定期試験70％		
履修条件	見学の交通費、入場料は各自負担		
教科書	「コンパクト版 建築史 日本・西洋」（彰国社）		
参考書	適宜、資料を配布する。		

科目名	デザイン環境演習Ⅰ Design and EnvironmentⅠ	単位数	2
		必選区分	必修
開講学科	デザイン環境学科（1年前期）	科目区分	演習
担当者	宮川友子・小川直茂	教員区分	学内教員／非常勤講師
授業目的 到達目標	<p>本授業では、学生がデザイン環境学科のすべての領域の基礎的な学びを体験し、自分の興味・関心に合い学ぶべき領域を見つけることを目的とする。「デザイン環境演習Ⅰ」では「基礎造形」と「グラフィックデザイン」の2分野について学ぶ。その中で、これ以降の学びにおける礎となる基礎的な観察力や、集中力、描画力、そして必要な技術を身につけることを目標とする。</p>		
授業概要	<p>【担当者の実務経験：デザイン事務所にてグラフィックデザイン業務の従事経験あり（宮川）、メディア系企業にてグラフィックデザイン／編集デザイン／イラストレーション制作業務の従事経験あり（小川）】</p> <p>【基礎造形分野】造形表現を形／色彩／構成などの基本的な要素に分解した「造形要素」の考え方を基軸に、各造形要素への理解を段階的に深める授業内容を設定している。アナログ画材を用いた複数の課題制作によって、あらゆる分野の造形活動に通じる造形要素の扱い方を体験的に学習する。[グラフィックデザイン分野]グラフィックデザイン分野において最も重要な要素である文字の、エレメントの美しさやレイアウトする際の空間などの基礎的事項について、レタリングなどの演習を通じて学び身につける。</p> <p>【SDGs：9】</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① オリエンテーション ② [基礎造形分野] 平行線による構成：疎密と太さによる立体感 ③ [基礎造形分野] 平行線による構成：色による透明視 ④ [基礎造形分野] 断線・欠線によるネガティブな像の構成 ⑤ [基礎造形分野] 漸進変化による構成□ ⑥ [基礎造形分野] 同形分割と等量分割 ⑦ [基礎造形分野] 同形ユニットによる平面充填 ⑧ [基礎造形分野] 基礎造形技法の応用表現 ⑨ [グラフィックデザイン分野] 和文フォント 明朝・ゴシック ⑩ [グラフィックデザイン分野] 〃 (中間チェック) ⑪ [グラフィックデザイン分野] 欧文フォント ⑫ [グラフィックデザイン分野] 〃 (中間チェック) ⑬ [グラフィックデザイン分野] 文字とデザイン 発展課題 (1) ⑭ [グラフィックデザイン分野] 文字とデザイン 発展課題 (2) ⑮ [グラフィックデザイン分野] 文字とデザイン 発展課題 (3) ⑯ 		
予復習等	<p>【予習】授業終了時に示した教科書の該当ページを事前に読んでおくこと。たくさんの印刷物を文字を中心に観察する、集める。</p> <p>【復習】授業時に示した課題について、授業時間外の制作を経て指定の時期までに提出すること。</p>		
評価方法	<p>[基礎造形分野] 提出作品による評価：100%</p> <p>[グラフィックデザイン分野] 提出作品による評価：90%、受講態度による評価：10%</p>		
履修条件	<p>[基礎造形分野、グラフィックデザイン分野共] 課題制作に必要な用具・材料費は受講生の自己負担とする。□</p>		
教科書	<p>[基礎造形分野] 『あたらしい基礎造形 -造形要素の組み合わせによる造形メソッド-』／著：久保村里正 ほか／出版：文教大学出版事業部 [グラフィックデザイン分野] なし。</p>		
参考書	<p>授業内で紹介する。</p>		

科目名	デザイン環境演習Ⅱ Design and EnvironmentⅡ	単位数	2
		必選区分	必修
開講学科	デザイン環境学科（1年前期）	科目区分	演習
担当者	福村愛美・加藤祥子	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	<p>デザイン環境学科の領域共通の専門科目の演習として、ファッション領域と建築・インテリア領域の基礎を演習することを目的とする。ファッション領域では、衣服造形の基礎的な知識を学び、衣服製作の技術を実習を通して修得する。建築・インテリア領域では、自ら設計した平面や空間イメージを他者に伝えるため、正確に図示できることが重要である。製図法の基本知識を理解し、図面模写および模型制作を通じてその技術を修得することを目的とする。</p>		
授業概要	<p>ファッション領域：衣服製作に必要な基礎的な知識及び技術を学ぶ。手縫いの基礎や、ミシンの使い方、スカートの製作を通して、衣服の構造や、製作過程を理解する。</p> <p>建築・インテリア領域：図面模写を通じて、建築物の平面図、立面図に関する講義と演習を行う。また、模型制作を通じて、建築物の立体表現についての理解を深める。</p> <p>【SDGs：11、12】</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① ガイダンス ② Aクラス：基礎縫い，Bクラス：平面図（1） ③ Aクラス：スカート製図，Bクラス：平面図（2） ④ Aクラス：スカート印付け・裁断，Bクラス：平面図（3） ⑤ Aクラス：スカートしつけ縫い，Bクラス：立面図（1） ⑥ Aクラス：スカート本縫い（1），Bクラス：模型制作（1） ⑦ Aクラス：スカート本縫い（2），Bクラス：模型制作（2） ⑧ Aクラス：スカート本縫い（3），Bクラス：模型制作（3） ⑨ Aクラス：平面図（1），Bクラス：基礎縫い ⑩ Aクラス：平面図（2），Bクラス：スカート製図 ⑪ Aクラス：平面図（3），Bクラス：スカート印付け・裁断 ⑫ Aクラス：立面図（1），Bクラス：スカートしつけ縫い ⑬ Aクラス：模型制作（1），Bクラス：スカート本縫い（1） ⑭ Aクラス：模型制作（2），Bクラス：スカート本縫い（2） ⑮ Aクラス：模型制作（3），Bクラス：スカート本縫い（3） 		
予復習等	<p>【予習】スカートの製作についてプリントで予習する。</p> <p>【復習】提出締切までに完成するよう、授業外での仕上げ作業を計画的に行う。</p>		
評価方法	<p>出席状況・授業態度20%，提出課題80%</p>		
履修条件	<p>制作に必要な材料費等は各自で負担</p>		
教科書	<p>1年後期に建築領域を選択予定の学生：学芸出版社「住まいの建築設計製図」今村 仁美著</p>		
参考書	<p>授業内で紹介する</p>		

科目名	発想トレーニング Idea and Solution	単位数	2
		必選区分	必修
開講学科	デザイン環境学科（1年前期）	科目区分	講義
担当者	奥村 和則	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	<p>学生がデザインを学ぶ上で必要な創造的発想、および、そのプロセスを学び、アイデアの獲得をより効率的に行えることを本授業の目的とする。そのために様々な発想方法を体験し、受講者其々に適した発想法を習得することが到達目標である。個人/グループ、バーバル/ノンバーバルなど異なる発想法に接し、アイデアを創出しやすい時間・環境を模索し続けることで、できるだけ早い時期の習得を目指す。</p>		
授業概要	<p>【担当者の実務経験：デザイン事務所にてデザイン業務の従事経験あり】</p> <p>優れたデザインを生み出すには発想力が不可欠であり、また、デザインプロセスのあらゆる局面でも求められている。柔軟に発想する能力は、新しいコンセプトやデザインを生み出し、その価値を創造している。</p> <p>本講義はクリエイティブな職場で実施されているグループによる発想法から効率的に思考をまとめる個人的収束技法まで幅広く学び、演習を通し基本を体得して、発想力の活性化と実践に役立つ発想法の習得する。</p> <p>【SDGs：4, 8, 9, 12】</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① イントロダクション ② アイデアとデザイン ③ 発散技法（1）－マインドマップ 他 ④ 発散技法（2）－ブレインストーミング 他 ⑤ 発散技法（3）－チェックリスト法 他 ⑥ 収束技法（1）－KJ法 他 ⑦ 収束技法（2）－ストーリー法 他 ⑧ 発想を具現化するトレーニング（1）－紙の折り・切りこみ ⑨ 発想を具現化するトレーニング（2）－展開図 ⑩ 発想法からの展開 素材の可能性（1）－選定 ⑪ 発想法からの展開 素材の可能性（2）－本制作 ⑫ 成果発表 ～プレゼンテーション～ ⑬ モデルを用いた発想法（1）－アイデアスケッチ ⑭ モデルを用いた発想法（2）－モックアップ ⑮ モデルを用いた発想法（3）－本制作 ⑯ 総評・まとめ 		
予復習等	<p>【予習】デザインにおける先進的取組を可能な範囲で調査を行っておくこと</p> <p>【復習】提示された課題に取り組み、適宜提出（エスキースにて進捗を報告）すること</p>		
評価方法	出席状況・受講態度30%、提出作品・プレゼンテーションによる評価70%		
履修条件	なし		
教科書	なし		
参考書	授業内で紹介する		

科目名	サステイナブルデザイン Sustainable Desgn	単位数	2
		必選区分	必修
開講学科	デザイン環境学科（1年前期） [岐阜学関連科目]	科目区分	講義
担当者	畑中 久美子	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	<p>日本は2050年までに脱炭素社会することを目標に掲げている。ものづくりを行うデザイン環境学科の学生として、サステイナブルデザインは避けて通ることができない。私たちはどのようなモノづくりを目指せばよいかを考えるために、現状を把握し、国や世界の取り組み、SDGsから見たものづくりの取り組みを観察する。さらに、ユニバーサルデザインについて基礎的な知識を身につけ、当事者の立場を理解する。</p>		
授業概要	<p>【担当者の実務経験：日・独の建築事務所にて住宅や公共施設などの設計業務に従事した経験あり。】 前半に「脱炭素を社会をめざす」にて、地球温暖化の現状を把握し、ものづくりに携わる人の使命を確認する。後半に「大学校舎から学ぶユニバーサルデザイン」ユニバーサルデザインの概要を学んだ後、車椅子・アイマスク体験を行うことで、少しでも当事者の立場になってものごとを捉え考えられる、気づきが得られることを期待する。</p> <p>フィールドワークや見学では、2コマ連続で、大学の外に出ることもある。最後に素材としての土に触れて、その可能性を考える。</p> <p>【SDGs：3・4・5・11・12・13・15】</p> <p>【岐阜学関連の授業回：⑩】</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① ガイダンス ② 地域と環境 SDGsをとおして物事を見てみよう ③ バウビオロジーの視点から見るまちと住環境 ④ ドイツの低炭素都市実現へのとりくみ ⑤ 低炭素都市実現に向けた住宅の使命 ⑥ カーボンニュートラル カーボンオフセットについて ⑦ 林業を理解するワークショップ ⑧ 岐阜のまちを考える ⑨ 見学 ⑩ 見学 ⑪ ユニバーサルデザイン ⑫ 車椅子・アイマスク体験 ⑬ 車椅子・アイマスク体験 ⑭ 素材としての土の可能性 ⑮ 素材としての土の可能性 ⑯ 定期試験 		
予復習等	<p>【予習】 次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味を調べておくこと。</p> <p>【復習】 授業で理解できなかった箇所を文献等で調べておくこと。□</p>		
評価方法	出席状況・授業態度30%、レポート・定期試験70%		
履修条件	見学の交通費、入場料は各自負担		
教科書	特になし		
参考書	適宜資料を配布する。		

科目名	ファッションデザイン画 Fashion Illustration	単位数	2
		必選区分	FD必修
開講学科	デザイン環境学科（1年後期）	科目区分	演習
担当者	北野 淳子	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	<p>学生がファッションに関わるデザインの基礎を学び、日常生活の中で関連する事物のデザインに着目し、広くは世界情勢、経済の変化やアート、ユニバーサルデザインなども追究し、専門知識と技術を取得し物づくりする事で、社会生活における諸課題を創造的に解決する表現方法を実践的な知識と能力を身につける事で、人々の生活環境の向上に活躍出来る人材の養成を目指す事を到達目標とする。</p>		
授業概要	<p>【担当者の実務経験：アパレル会社でデザイナーとして業務に従事した経験あり。現役で専門学校での担任の業務に従事。】自由な発想のファッションデザインを現実に物づくりで表現する手段となるファッションデザイン画の基礎を学び、衣服のディテールや素材などそれぞれの目的に合う表現方法を習得する。人間の身体プロポーションや動き、着装描法、画材の特性研究を経て各種コンテストにも参加で実践的な経験も授業として実施する。 【SDGs：5, 9, 12】</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① 顔 パーツの位置の把握と形の理解 ② 手・脚 形を理解しポーズ、靴の描法演習 ③ プロポーション(1) 基本ポーズの作成（正面・横・後） ④ 着装(1) ベーシックアイテムからデザイン性のあるアイテムまでの着装方法 ⑤ 着装(2) 動作による衣服のしわの変化の理解 ⑥ 着彩(1) 画材の特性とスタイル画での使用手順・効果の理解と着彩法の演習 ⑦ プロポーション(2) メンズ・キッズのプロポーションの理解とポーズの作成 ⑧ 着彩(2) 素材との相性を理解し着彩法を演習 ⑨ 布の表現 (ギャザー・ドレープ・フレアー) ⑩ 素材別表現法(1) 素材の表情を理解し画材との相性の研究 ⑪ 素材別表現法(2) 織り・柄・編地等の描法えん ⑫ シルエットの変化とダーツ・デザイン線の理解 ⑬ ハンガーイラストの基本演習Ⅰ (シャツ・ジャケットなどのトップス) ⑭ ハンガーイラストの基本演習Ⅱ (ボトムス) ⑮ ハンガーイラストの基本演習Ⅲ (衿・袖などのディテール) ⑯ 定期試験 		
予復習等	<p>【予習】次回演習に関連する参考になる本などで調べておくこと。 【復習】授業で演習した技法を使い、次回授業で課題作品提出する。</p>		
評価方法	出席状況・受講態度30%、提出課題50%、定期試験20%		
履修条件	コンテスト登録料自己負担、材料費一部自己負担		
教科書	文化ファッション大系ファッションデザイン画		
参考書	必要に応じて随時紹介		

科目名	ファッション造形論 Theory of Fashion Making	単位数	2
		必選区分	FD必修
開講学科	デザイン環境学科（1年後期）	科目区分	講義
担当者	柴田 佐和子	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	<p>衣服の設計・生産の過程で必要となる専門知識を習得することを目的とする。人体構造と衣服の関連、素材の種類と副資材の役割と種類、デザインにあわせた素材の選定方法、衣服の設計・生産システムの仕組み、衣服生産上起こりうる問題点と、素材・機器の関係など、アパレル設計・生産分野について幅広く理解する。</p>		
授業概要	<p>デザインの発想から、パターンメイキング、縫製加工、着装までの衣服の設計・生産の過程の中で必要となる、人体形態とパターンに関する基礎知識、パターンとデザイン、デザインに合わせた素材選択および素材に適した縫製方法(使用機器、技術)についての専門知識を習得する。さらにアパレル生産の基礎知識の習得をとおして、生活者やアパレル生産者に有益な、美しく快適な着心地を与えるアパレルの本質と合理的な衣生活の実現に向けての衣服に関する科学的理解と知識を深める。 【SDGs：4, 9, 12】</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① 衣服の美しさ、快適な衣生活とアパレル設計 ② 衣服の分類、シルエットと求められる性能 ③ 衣服と人体ー人体の構造、体型、人体計測ー ④ パターン設計ー人体形態と原型ー ⑤ パターン設計ーデザイン展開ー ⑥ 既製服の衣料サイズと工業用ボディ ⑦ プロダクトパターン、縫製仕様書の作成 ⑧ 布地の立体化の技法 ⑨ 布地の立体化と布の力学特性 ⑩ 表地の種類と素材選定ー天然繊維・単繊維素材ー ⑪ 表地の種類と素材選定ー合成繊維・長繊維素材ー ⑫ 表地の種類と素材選定ーニットの特徴と種類ー ⑬ 裏地と芯地の役割と種類、素材選定 ⑭ 縫製技法ー縫い目、縫い合わせの種類と機器ー ⑮ 縫製上の問題点と、素材・機器の関係 ⑯ 		
予復習等	<p>【予習】教科書、参考書を読み次回の授業内容について予習する。 【復習】授業で行った内容について確認を行う。</p>		
評価方法	出席状況・受講態度20%、テスト・課題提出80%		
履修条件	衣料管理士必修		
教科書	『アパレル設計論・アパレル生産論』／出版：日本衣料管理協会		
参考書	『文化ファッション大系 改訂版・服飾造形講座①服飾造形の基礎』／出版：文化出版局		

科目名	ファッション造形演習Ⅰ Fashion MakingⅠ	単位数	2
		必選区分	FD必修
開講学科	デザイン環境学科（1年後期）	科目区分	演習
担当者	福村 愛美	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	<p>ブラウスの製作を通して、人体上半身体型を把握するとともに、衣服造形に関する基礎的な知識と技術の向上を目的とし、以下の4点を到達目標とする。</p> <p>(1)身頃原型におけるダーツ展開を理解する (2)ブラウスの製図および製作工程を理解する (3)素材の選定および扱い方を理解する (4)基礎的なアイテムが製作できる力を身につける</p>		
授業概要	<p>身頃原型を作成し、ブラウスを製作する。基本的なデザインや構造を理解し、身頃原型におけるダーツ展開および製図方法を理解した後に、各自の身体にフィットするパターンを作成しする。さらに、デザインに適した素材の選定および扱い方を学び、素材の特性に適した縫製技法を製作を通じて習得する。</p> <p>【SDGs：12】</p>		
授業計画	<p>①ブラウス(1) 身頃原型の作成、採寸 ②ブラウス(2) 製図(1/4サイズ) ③ブラウス(3) 製図(実物大)、パターンチェック ④ブラウス(4) 印・縫い代つけ ⑤ブラウス(5) 裁断 ⑥ブラウス(6) 仮縫い ⑦ブラウス(7) 試着、パターン修正、芯地貼り ⑧ブラウス(8) 縫製(身頃) ⑨ウール講座②(マテリアルセンター見学および実習) ⑩ブラウス(9) 芯地貼り、縫製(衿) ⑪ブラウス(10) 縫製(衿つけ) ⑫ブラウス(11) 縫製(袖) ⑬ブラウス(12) 縫製(袖つけ) ⑭ブラウス(13) 縫製(ボタンホール、ボタン) ⑮ブラウス(14) 仕上げ ⑯課題作品提出</p>		
予復習等	<p>【予習】教科書、参考書を読み次回の授業内容について予習する。 【復習】授業で行った内容について確認を行い、次の授業に備えて課題を進める。</p>		
評価方法	出席状況・受講態度30%、提出作品・その他提出物70%		
履修条件	製作に必要な材料費(製図用具、生地、副資材等)は受講生の負担とする。		
教科書	文化ファッション大系 改訂版・服飾造形講座③ブラウス・ワンピース(文化出版局)、配布資料		
参考書	文化ファッション大系 改訂版・服飾造形講座①服飾造形の基礎(文化出版局)		

科目名	ドレーピング Draping	単位数	2
		必選区分	FD選択
開講学科	デザイン環境学科（1年後期）	科目区分	演習
担当者	堀田 悦子	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	<p>ドレーピングとは、様々な種類のボディや素材を使ってデザインを形にしたり、シルエットを作る技術である。立体裁断の考え方、人体に適合したシルエット、デザイン線、構造線のとらえ方を学ぶ。基礎となるシルエットの演習を行い、ドレーピングの基本的な技術を習得するとともに、人体の特性と衣服の関係を学び、適正なパターンメイキングができることを目的とする。また、日本ファッション協会振興会パターンメイキング技術検定3級を取得するための知識と技術を身に付ける。</p>		
授業概要	<p>【担当者の実務経験：日本ファッション教育振興協会パターンメイキング技術検定2級3級の実技試験採点の経験あり。アパレル企業でデザイナー、パターンナーとして業務に従事】人間の身体は凸凹の立体であり、平面である布を覆ったとき、どのように形を作れば機能性のある衣服として成り立つかは、人体を観察し、構造原理を理解することが重要である。また、シルエットの構成、量感、フィット感を判断し、ファッション性をプラスすることも必要とされる。この授業では、基本の演習を通して布目の方向、流れ、量感、バランスを捉える感覚を養い、パターンメイキング力の向上とクリエイションのステップに繋げる。</p> <p>【SDGs：4.9.12】</p>		
授業計画	<p>①ドレーピングの基礎と準備 ②ストレートスローパー（1） ③ストレートスローパー（2） ④タイトスローパー（1） ⑤タイトスローパー（2） ⑥シャツカラー ⑦袖の作図 ⑧袖付け ⑨タイトスカート（1） ⑩タイトスカート（2） ⑪フレアースカート（1） ⑫フレアースカート（2） ⑬ダーツ移動（1）折り紙 ⑭ダーツ移動（2）デザイン線 ⑮ダーツ移動（3）バリエーション ⑯定期試験</p>		
予復習等	<p>・次の授業で必要となる布の地直しと教科書の該当ページを読んでおくこと。 ・授業内で行った内容の確認を行い、次の授業までに課題を進めておく。</p>		
評価方法	出席状況及び授業態度20% 提出作品80%		
履修条件	演習に必要な用具は各自の負担とする。		
教科書	『文化ファッション大系 アパレル生産講座⑤工業パターンメイキング』/文化出版局、配布資料		
参考書			

科目名	繊維材料学 Fiber Science	単位数	2
		必選区分	FD必修
開講学科	デザイン環境学科（1年後期）	科目区分	講義
担当者	太田 幸一	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	ファッション領域で幅広く使用されている繊維材料について、その種類、特性、用途などについて習得することを目的とする。 繊維／糸／布（織物／編み物）の種類や製造プロセス、性質、用途を基本的に理解し、生活デザインの各分野において繊維材料を適切に選択使用できるようにすることを目標とする。		
授業概要	<p>【担当者の実務経験：公設試で繊維材料に関する中小企業向け指導・相談・依頼試験業務に従事】</p> <p>この講義では、ファッション分野において根幹となる繊維製品を中心に、繊維材料の性質、製造方法、利用分野などを解説する。また材料見本を実際に手にすることにより、各種糸、織物、編物、加工素材の触感、風合いを身近なものとしてとらえ、生活材料の適切で合理的な利用方法を理解する。</p> <p>【SDGs：9, 12】</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① 繊維材料の分類 ② 天然高分子材料（1） 植物繊維 ③ 天然高分子材料（2） 動物繊維 ④ 合成高分子材料（1） 再生繊維・半合成繊維 ⑤ 合成高分子材料（2） 合成繊維／無機・金属繊維 ⑥ 繊維集合体（1） 糸 ⑦ 繊維集合体（2） 織物 ⑧ 繊維集合体（3） 編物・レース ⑨ 不織布／副資材 ⑩ 材料の機能性付与と加工 ⑪ 材料の性能評価（1） 機械的性能と評価方法 ⑫ 材料の性能評価（2） 保健衛生的性能と評価方法 ⑬ 材料の性能評価（3） 風合い・その他特性と評価方法 ⑭ 繊維製品の品質表示 ⑮ 繊維材料の最新トピックス ⑯ 期末試験（記述式 持ち込み不可） 		
予復習等	<p>【予習】解説予定の素材や特性について、日常生活での使用形態について確認しておく。</p> <p>【復習】毎回配付される資料について、講義中解説した重要項目について復習する。</p>		
評価方法	出席状況・受講態度20％、期末試験80％で、総合判定する		
履修条件	あらかじめ『材料学』を受講しておくことが望ましい		
教科書	『繊維材料にフォーカスした生活材料学 新版』／榎本雅徳、古濱裕樹編著／アイエイコーポレーション		
参考書	『はじめて学ぶ繊維』日刊工業新聞 『衣服材料の科学』建帛社		

科目名	ファッションビジネス論 Theory of Fashion Business	単位数	2
		必選区分	FD必修
開講学科	デザイン環境学科（1年後期）	科目区分	講義
担当者	柴田 佐和子	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	ファッションビジネスの全貌を知り、テキスタイル産業・アパレル産業・小売業の業務を理解することを目的とする。 現代社会においてファッションは欠かせないものである。日々移り変わる、消費者のニーズを素早く見極め、魅力的な商品を提供するプロセスを知ること、ファッション産業に携わるための基礎的な知識を習得することを到達目標とする。		
授業概要	<p>ファッションを消費者ではなくビジネスとして担っていく立場から捉え、ファッションビジネスの特性や消費者の生活と消費の関わり、ファッション産業の特性と構造について、ショップにおける商品開発やプロモーション（販売促進）など、ファッションビジネス分野の基礎的な知識を体系的に学ぶ。</p> <p>なお、本授業は『ファッションビジネス能力検定』の取得対策授業であり、積極的な検定受験を推奨し、資格取得を目指すための小テスト等を実施する。</p> <p>【SDGs：4, 6, 9, 12】</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① ファッションビジネスの定義と特性 ② ファッション生活と消費 ③ ファッション産業構造(1) ④ ファッション産業構造(2) ⑤ テキスタイル産業 ⑥ アパレル産業 ⑦ アパレル小売産業 ⑧ ビジネス知識と計数管理 ⑨ ファッションマーケティング ⑩ ファッションマーチャンダイジング ⑪ アパレル商品開発 ⑫ ファッション流通とプロモーション ⑬ ファッション商品知識 ⑭ ファッション産業の職種と業務内容 ⑮ 小テスト（検定試験対策のため、時期は検定試験スケジュールに合わせる） 		
予復習等	<p>【予習】教科書、配布資料を読み次回の授業内容について予習する。</p> <p>【復習】授業で行った内容について復習を行うとともに、参考書等で検定対策をする。</p>		
評価方法	出席状況・受講態度20％、小テスト30％、レポート50％		
履修条件	衣料管理士必修		
教科書	『ファッションビジネス 2級 新版』日本ファッション教育振興協会、配布資料		
参考書	文化ファッション体系『ファッションビジネス』、ファッションビジネス能力検定試験2級項目別試験問題・解答集		

科目名	ファッションマーケティング Fashion Marketing	単位数	2
		必選区分	FD必修
開講学科	デザイン環境学科（1年後期） [岐阜学関連科目]	科目区分	演習
担当者	下川 美都子	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	消費者のニーズ（欲求）を徹底的に分析し、消費者（需要側）が共感できる魅力的な商品をファッション企業（供給側）はいかに提供できるか。ファッション業界ではマーケティングは重要な活動であり、現在、さらに強化している。本授業では、学生が市場調査や定点観測・ターゲットのマーケット動向の分析・次シーズントレンド情報分析など、マーケティングのプロセスを習得することを目的とする。さらに、学生がブランド戦略へ発展させる能力を養うことを到達目標とする。基本アパレルアイテム用語（小テストを実施）を理解し、学生各自のマーケティングマップを作成する。		
授業概要	【担当者の実務経験：アパレル企業の企画室でファッションマーケティング業務に従事、さらに、百貨店でファッションマーケティング業務に従事した経験あり。】ファッション産業が多様化する現在において、ファッション企業（供給側）は消費者（需要側）に対して、より明確な商品戦略が重要になっている。①②③は、マーケティングの重要性とアイテムの基礎知識の理解を深める。④⑤は雑誌分析からイメージやタイプ、感性やマインドエイジ（年齢ターゲット）などの分析方法を習得する。⑥～⑩は、学外次シーズントレンドセミナーの聴講から、次シーズントレンド分析、競合店調査などを行い、よりマーケティング分析の理解を深める。これらを踏まえ、次シーズンを予測し、学生各自のマーケティングマップを作成する。（※学外セミナーの日程により授業計画が移動する場合がある。） 【SDGs：5, 12】 【岐阜学関連の授業回：⑩】		
授業計画	① ファッションマーケティングの重要性 ② マーケット動向 今シーズントレンドアイテムリサーチ ③ アイテム&デザインディテール知識 ④ シーズンサイクルとワードローブ ⑤ ファッションタイプ・マインドエイジ、感性分析、雑誌ポジショニング分析 ⑥ 学外セミナー ⑦ 次シーズントレンド情報分析（感性グループ、トレンドテーマ） ⑧ 次シーズントレンド情報分析（カラー・素材・柄） ⑨ 次シーズントレンド情報分析（シルエット、アイテム等、まとめ） ⑩ ⑦～⑨を踏まえて、次シーズンブランド企画予測（SDGs概念も入れながら予測） ⑪ マーケティングマップ作成（1） ⑫ マーケティングマップ作成（2） ⑬ 競合店調査（1） ⑭ 競合店調査（2） ⑮ プレゼンテーション		
予復習等	【予習】マーケティング分析で、新聞・雑誌など最新の情報は自主的に調査しておくこと。 【復習】マーケティングマップの進行を遅れないよう、常に理解を深め作成しておくこと。		
評価方法	受講態度20%、小テストと競合店調査レポート30%、提出課題（マーケティングマップ・企画書ファイル）50%		
履修条件	衣料管理士必修。前期「ファッションビジネス論」を履修していることが望ましい。		
教科書	プリント配布、各自興味ある雑誌を購入し用意のこと。※課題提出指定ファイルは自己負担		
参考書	文化ファッション体系 流通①『ファッションビジネス流通編基礎』文化出版局		

科目名	ファッション史概論 Introduction to History of Fashion Design	単位数	2
		必選区分	FD必修
開講学科	デザイン環境学科（1年後期）	科目区分	講義
担当者	中村 圭美	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	西洋服飾史のみならず、芸術、デザイン、身体、建築といった切り口から、ファッションと私たちとの関わりについて広く考えることを目的とし、以下の3点を到達目標とする。 （1）西洋服飾史と、関連する社会、文化、歴史についての基礎的知識を習得する。 （2）身体、芸術、文化、社会と私たちのあり方の基礎的知識を習得する。 （3）ファッション、デザイン、建築の資料としてデザインの発想を生み出すための知識を習得する。		
授業概要	【担当者の実務経験：神戸ファッション美術館にて学芸員として勤務】 「ファッション」を、単に衣服や化粧といった行為のみで語るのではなく、もっと広い意味を持つものとして捉え、衣服が着用された時代の歴史的背景やその当時の流行や衣服のつくりなども含めて、文化的、社会的、政治的な側面にも着目し、ファッションと私たちとの関わりについて考察してく。絵画、写真、雑誌、映像、そして、神戸ファッション美術館が所蔵する、18世紀から現代に至るまでのファッションに関する豊富な作品や資料などを使用して、講義をすすめる。また、「ファッション」にまつわる基礎的な知識を、服飾史、身体論、アート、建築などを通して紹介する。 【SDGs：5, 12】		
授業計画	① ガイダンス&服飾史概観（1）18世紀ロココまで ② 服飾史概観（2）18世紀ロココ ③ 服飾史概観（3）エンパイアからロマンチックスタイル ④ 服飾史概観（4）クリノリンからバスルそしてジャポニスム ⑤ 服飾史概観（5）アール・ヌーヴォー、アール・デコ ⑥ 服飾史概観（6）オートクチュール黄金期 ⑦ 服飾史概観（7）現代 ⑧ ファッションと身体 ⑨ 建築とファッション ⑩ 世界のファッション美術館とファッションに関わる展覧会 ⑪ デザインとは ⑫ 環境とファッション ⑬ 現代アートとファッション ⑭ 社会とファッション（1）ファッションとジェンダー ⑮ 社会とファッション（2）ファッションとネットワーク ⑯ まとめ		
予復習等	【予習】教科書、参考書、映像資料など授業内容に該当するページを読んでおくこと。 【復習】授業でおこなった内容について確認を行う。		
評価方法	出席状況・受講態度50%、レポート50%		
履修条件	なし		
教科書	増補新版 カラー版 世界服飾史（美術出版社）		
参考書	授業中に適宜紹介する。		

科目名	建築・インテリア設計演習 I Architecture/Interior Planning I	単位数	2
		必選区分	ID必修
開講学科	デザイン環境学科（1年後期） [岐阜学関連科目]	科目区分	演習
担当者	畑中 久美子	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	前期に習得した製図や模型作成のテクニックを用いて、実際に設定された敷地を読み取り、設計要件を満たすべく建物を考え、設計し、図面と模型で表現して他者にわかりやすく伝えるための授業です。はじめての建築設計をおこなうにあたって、敷地の見方、情報の集め方、敷地模型の作り方、設計の方法を、ステップを踏んで学び、楽しく身につけることを目標とします。		
授業概要	【担当者の実務経験：建築事務所で住宅や公共施設などの設計業務に従事した経験あり。】 この演習では、前期に習得した基礎製図の技術を生かして住宅の設計をします。課題敷地を読み取り、敷地模型を作成し、ボリューム模型、スチレンボード模型へとステップを踏みながら設計を進めていきます。自分が建物の使い手となったことを想定してその空間の中を歩き回ったり、使うことをイメージしていきます。 【SDGs：3・4・5・11・12・13・15】 【岐阜学関連の授業回：⑩】		
授業計画	① 課題：「住宅の設計」 課題説明および、敷地見学 敷地模型づくり ② 敷地見学 ③ 敷地分析・敷地模型づくり ④ ボリュームスタディ ⑤ ボリュームスタディ ⑥ 機能を考える ⑦ 機能を考える ⑧ 空間の囲み方、支え方を考える ⑨ 空間の囲み方、支え方を考える ⑩ 開口部のスタディ ⑪ 開口部のスタディ ⑫ プレゼンテーション ⑬ プレゼンテーション ⑭ 講評会 ⑮ 図面の手直し		
予復習等	【予習】敷地の調査、模型制作、事例調査等、設計を進めるために必要な情報収集 【復習】エスキスチェックにて指摘された箇所の検討。次週までの宿題を進めること		
評価方法	出席状況・受講態度20%、課題80%		
履修条件	課題敷地までの交通費は自己負担。		
教科書	コンパクト建築設計資料集成（日本建築学会編）、初めての建築設計 ステップ・バイ・ステップ（彰国社）		
参考書			

科目名	建築・インテリアCAD演習 Architecture/Interior CAD	単位数	2
		必選区分	ID選択
開講学科	デザイン環境学科（1年後期）	科目区分	演習
担当者	服部 宏己	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	本講義は、CADの基本的な知識・技術を習得することを目的とする。実務においては、複数のCADソフトがあるが、1つのCADソフトを扱うことができれば、他のCADソフトは比較的容易に操作することができるようになる。したがって、本講義では、世界的にも広く使用されているAutoCADの操作を教科書を見ることなく扱えるようになることを目標とする。		
授業概要	【担当者の実務経験：総合建設業において建築物の構造設計・監理業務に従事した】 この演習では、CADの概要を理解し、実務において汎用的に使用されているCADソフト：AutoCADを用いて、その基本操作を学習する。また、一般的な木造の戸建住宅を作図することにより、実務に対応したCADの製図技法および建築製図の表現方法を習得するとともに、建築図面を通して立体的な観念を身につける。 【SDGs：11】		
授業計画	① CADの概要 ② 基本操作1 ③ Lesson1 ④ 基本操作2 ⑤ Lesson2 ⑥ 基本操作3 ⑦ Lesson3 ⑧ 木造戸建住宅：1階平面図（躯体） ⑨ 木造戸建住宅：1階平面図（仕上げ） ⑩ 1階平面図まとめ・中間試験 ⑪ 木造戸建住宅：1階平面図（詳細） ⑫ 木造戸建住宅：立面図 ⑬ 図面の印刷、演習課題（RC造集合住宅：断面図）出題 ⑭ 演習課題（RC造集合住宅：断面図）1 ⑮ 演習課題（RC造集合住宅：断面図）2 ⑯ まとめ		
予復習等	【予習】教科書の操作手順をあらかじめ見ておくこと。 【復習】講義で描いた図を繰り返し練習しておくこと。		
評価方法	出席状況・授業態度20%、中間試験・演習課題80%		
履修条件	なし		
教科書	ソーテック社 鈴木孝子著「はじめて学ぶAutoCAD LT作図・操作ガイド2023」		
参考書	なし		

科目名	建築プレゼンテーション演習 Architecture Presentation	単位数	2
		必選区分	ID選択
開講学科	デザイン環境学科（1年後期）	科目区分	演習
担当者	服部 宏己	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	建築プレゼンテーション演習では、CADで製図したデータや、撮影した画像等を用いて、建築やインテリア設計、ポートフォリオのプレゼンテーションに必要な方法や知識を、主にAdobeのフォトショップおよび、イラストレーターを使用しながら実践的に習得します。設計演習や、卒業研究はもちろん、作品をより人にわかりやすく伝えるためのプレゼンテーションを目指します。		
授業概要	【担当者の実務経験：建築事務所にて住宅や公共施設などの設計業務に従事した経験あり。】 1) 就職活動や進学等で活用できるポートフォリオの作成を行います。 2) フォトショップおよび、イラストレーターの建築プレゼンテーションにおける基礎的なテクニックを習得します。 3) 優れた建築プレゼンテーションを数多く見ることで他者に伝わりやすいプレゼンテーションを知識として蓄えます。 4) 応用編として、建築・インテリア設計演習Ⅱと連動し、設計中の建物のプレゼンテーションを実践的にを行います。 【SDGs：4・5・11】		
授業計画	① ガイダンス（建築プレゼンテーション演習の方法） ② 図面に使えるテクニック ③ 図面に使えるテクニック ④ 建築写真に使えるテクニック□ ⑤ 建築パースに使えるテクニック ⑥ プレゼンテーションに使えるテクニック ⑦ コンペの作品からプレゼンテーションを学ぶ ⑧ コンペの作品からプレゼンテーションを学ぶ ⑨ カuttingプリンターを使おう 基礎編 ⑩ Cuttingプリンターを使おう 応用編 ⑪ ポートフォリオの作成1 ⑫ ポートフォリオの作成2 ⑬ ポートフォリオの講評会 ⑭ 課題のプレゼンテーション ⑮ 講評会		
予復習等	【予習】演習で用いる画像や図面等の素材の準備 【復習】演習時間内で終わらなかった課題を進めること		
評価方法	出席状況・授業態度30%、課題70%		
履修条件	建築・インテリア設計演習Ⅰを受講していることが望ましい。		
教科書	建築とインテリアのためのPhotoshop+Illustratorテクニック(エクスマレッジムック)		
参考書			

科目名	建築計画論 Theory of Architectural Planning	単位数	2
		必選区分	ID必修
開講学科	デザイン環境学科（1年後期）	科目区分	講義
担当者	白井 直之	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	建築を学ぶ、あるいは設計を行う上で必要となる基礎的な理論を習得する事を目的とする。 到達目標は、次の4つについて理解し、説明できるようになることである。 ・建築における身体、心理、行動に関する理論 ・単位空間における基本的な寸法と作法 ・住宅および集合住宅の種類と計画 ・さまざまな建築と都市の歴史的な位置づけ		
授業概要	【担当者の実務経験：公共施設の設計及び監理の実務経験がある教員が担当する】 本講義ではまず、建築という社会的責任を伴う行為の前提を学ぶ。次に、寸法や動線といった設計手法に関わる内容を扱う。その中で、人と建築との関係をとらえる上で必要となる理論について学ぶ。とりわけ空間というものは教科書で学ぶだけではわかりにくい側面があるため、実際に体験しながら説明を加える機会を設ける。後半では、住宅や集合住宅の実例を示しながら、それらの計画における要点を説明し、前半の内容を補強する。さらに、近代以降のさまざまな建築の事例および、それらの背景にある都市という視点での説明を加え、歴史的な脈絡の中で建築をとらえることができるように構成している。 【SDGs：11】		
授業計画	① 建築する背景 ② 倫理・設計のプロセス ③ 身体・動作・寸法 ④ 単位空間 ⑤ 単位空間 ⑥ 知覚・心理 ⑦ 行動・交流 ⑧ 空間の体験と実測 ⑨ 世界の住まい ⑩ 近現代の住宅 ⑪ 住宅の計画 ⑫ 集合住宅の計画 ⑬ 近代建築 ⑭ 都市の歴史 ⑮ 都市の計画 ⑯ 定期試験		
予復習等	【予習】毎回のテーマについて、教科書の該当する章を読み、授業に臨むこと。 【復習】配布資料を読み、疑問点を整理すること。		
評価方法	出席状況・授業態度15%、定期試験85%		
履修条件	学修規程による。		
教科書	『設計に活かす 建築計画』 / 著：内藤和彦ほか / 出版：学芸出版社		
参考書	『コンパクト建築設計資料集「住居」』/日本建築学会学会 / 出版：丸善		

科目名	西洋建築史	単位数	2
	History of Western Architecture	必選区分	ID選択
開講学科	デザイン環境学科（1年後期）	科目区分	講義
担当者	杉山 真魚	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	<p>本授業では、学生が古代から現代までの西洋建築の歴史について大きく以下の3点を学ぶことを目的とする。</p> <p>①インテリア・住居・建築に関する教養・専門知識を修得する。 ②西洋建築の空間や意匠の特徴を理解する。 ③西洋建築を取り巻く環境や技術の歴史的経緯を理解する。</p>		
授業概要	<p>新しい生活空間を創造・享受するためには、自然と人間のあり方を歴史的に理解することが必要である。本授業では、西洋の建築と都市に関する様々な思想を知ること、および建築作品や都市景観を見ることを通して、現代の状況を多角的に把握し、未来を見通す力を涵養する。第4回までの授業では、西洋建築の「通史的理解」を深めるため、19世紀を重大な転換点としながら、「建築」「空間」「都市」という鍵語とともに古代から現代までの流れを総覧する。第5回～第15回では各時代の社会や生活とともに建築の詳細を把握する。</p> <p>【SDGs：11, 12】</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① 趣旨説明 ② 西洋建築の基礎概念（1）建築 ③ 西洋建築の基礎概念（2）空間 ④ 西洋建築の基礎概念（3）都市 ⑤ 古代の建築（1）古代オリエント建築 ⑥ 古代の建築（2）古代ギリシア建築 ⑦ 古代の建築（3）古代ローマ建築 ⑧ 中世の建築（1）初期キリスト教建築 ⑨ 中世の建築（2）ロマネスク建築 ⑩ 中世の建築（3）ゴシック建築 ⑪ 近世の建築（1）ルネサンス建築 ⑫ 近世の建築（2）バロック建築 ⑬ 近世・近代の建築 18～19世紀の建築 ⑭ 近・現代の建築（1）20世紀の建築 ⑮ 近・現代の建築（2）現代の建築 ⑯ 定期試験 		
予復習等	<p>【予習】教科書を用いて西洋史の概略を理解しておくこと。 【復習】次の時代の展開を掴むために授業で配布する参考資料を読むこと。</p>		
評価方法	授業態度・各回レポート課題（スケッチ課題の場合もあり）50% 定期試験 50%		
履修条件	なし		
教科書	「建築史」編集委員会著『コンパクト版 建築史 日本・西洋』、彰国社		
参考書	適宜参考資料を配付する		

科目名	建築材料学	単位数	2
	Building Materials	必選区分	ID必修
開講学科	デザイン環境学科（1年後期） [岐阜学関連科目]	科目区分	講義
担当者	服部 宏己	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	<p>本講義は、建築物で扱われている建築材料の種類や性質・機能性について、その基礎知識を体系的に理解することを目的とする。建築で扱われる材料は特に構造材料が主となり、コンクリート、鉄鋼材料、木材・木質材料が重要となる。各々を相対的に比較することによって、利点および欠点を把握し、1年生後期に学ぶ一般構造に繋がるよう理解することを目標とする。</p>		
授業概要	<p>【担当者の実務経験：総合建設業において建築物の構造設計・監理業務に従事した】</p> <p>建築材料は、安全で機能的でありかつ意匠的にも優れた建築空間を創り出すために、様々な材料と部材が組み合わされている。これらの建築材料を選定するには、その物理的・化学的特性に加え、規格・寸法などの知識が必要となる。本講義では、建築材料の実物や現実的な図を多用することによりその理解を深めるとともに、実務経験から得た留意すべき点を講義の中で適宜解説する。木質材料1では岐阜県の産材を取り上げ紹介する。</p> <p>【SDGs：9, 11, 12】 【岐阜学関連の授業回：⑧】</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① 建築材料概論 ② 建築構成部位と材料 ③ コンクリート材料1（概要） ④ コンクリート材料2（硬化コンクリート） ⑤ コンクリート材料3（フレッシュコンクリート） ⑥ 鉄鋼材料1（概要） ⑦ 鉄鋼材料2（基本物性） ⑧ 木質材料1（概要・岐阜の木材） ⑨ 木質材料2（力学的性質） ⑩ その他の構造材料 ⑪ 仕上材料1（木質・金属・セメント系材料） ⑫ 仕上材料2（石材・セラミック系・高分子材料） ⑬ 機能性材料1（塗材・防水材料） ⑭ 機能性材料2（防火・耐火・断熱材料） ⑮ 新しい建築材料 ⑯ 定期試験 		
予復習等	<p>【予習】教科書の該当するページを写真・図を中心にあらかじめ見ておくこと。 【復習】板書した内容で専門用語などは写真・図と一緒に覚えること。</p>		
評価方法	出席状況・授業態度20%、定期試験80%		
履修条件	なし		
教科書	共立出版 三橋博三・大濱嘉彦・小野英哲編集 「建築材料学」		
参考書	なし		

科目名	建築環境学 Theory of Architectural Environment	単位数	2
		必選区分	ID必修
開講学科	デザイン環境学科（1年後期）	科目区分	講義
担当者	加藤 祥子	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	<p>建築環境学の目的は、望ましい室内環境を形成するための物理的・生理的・心理的な知見を整理・統合し、建築計画に役立てることである。最近では、建築が都市や地球環境に及ぼす影響が注目され、ヒートアイランド現象や地球温暖化の対策としての建築のあり方にも大きな関心を持たれている。本講義では、環境要素である光、熱、空気、音に関して解説し、建築物によってどのように室内環境が形成されるかを学び、人や環境にとって望ましい室内環境を形成する建築物のあり方について考える。</p>		
授業概要	<p>建築を環境の面から考える意義について講義したうえで、各要素に関して解説する。まず光環境について、光および視知覚の特性を理解する。昼光利用と人工照明について学ぶ。次に、熱の伝わり方や太陽の特性について学び、室内の温熱環境形成について理解する。冷暖房によるエネルギー消費の削減には、温熱環境に影響を及ぼす要因を把握し、建築環境学的に対処することが有効である。在室者の健康には、空気質を良好に保つ必要がある。そのためには、換気が必要であり、その方法や空気汚染物質について学ぶ。生活にともない、様々な音が発生する。音の性質を知り、音の制御などについて学ぶ。そして地球規模の環境について考える。</p> <p>【SDGs：7, 9, 11, 12, 13】</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① 建築環境学の概要、環境の要素 ② 光環境（1）照明 ③ 光環境（2）色彩 ④ 温熱環境（1）熱移動と断熱 ⑤ 温熱環境（2）湿度と結露 ⑥ 温熱環境（3）体感温度 ⑦ 温熱環境（4）太陽と日射 ⑧ 空気環境（1）空気汚染物質と換気 ⑨ 空気環境（2）自然換気 ⑩ 空気環境（3）機械換気 ⑪ 空気環境（4）換気計画、通風 ⑫ 音環境（1）音の性質 ⑬ 音環境（2）吸音・遮音・音響 ⑭ 音環境（3）騒音と振動 ⑮ 地球環境 ⑯ 定期試験 		
予復習等	<p>【予習】テキストの予習を行うこと。 【復習】復習を通じて理解を深め、次の講義に臨むこと。</p>		
評価方法	出席状況・授業態度・提出物・小テスト30%、定期試験70%		
履修条件	なし 【領域間単位互換科目】他領域の受講者は建築設備学を同時に受講すること		
教科書	学芸出版社「図説 やさしい建築環境」 辻原万規彦監修、今村仁美・田中美都著		
参考書	適宜、資料を配布		

科目名	建築設備学 Theory of Architectural Equipment	単位数	2
		必選区分	ID必修
開講学科	デザイン環境学科（1年後期）	科目区分	講義
担当者	加藤 祥子	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	<p>建築設備とは、建築物に設ける給排水設備や冷暖房設備、換気設備、電気設備などを指し、現代の建築物にとって不可欠なものである。建築設備は、人々の利便性・快適性の追求の中で生まれ、近現代に急速に発展・普及した。一方、この発展の過程は、エネルギー使用の増大と地球・都市の環境悪化の過程でもあり、環境保全に配慮した技術が求められている。建築設備が果たす役割を把握し、快適な室内環境を実現するための建築デザインのあり方を考える。</p>		
授業概要	<p>給排水設備とは、建築に水を供給し、衛生的に使用する器具を設け、使用した水を排水する設備である。水は生活に欠かせないものであり、衛生的であることが求められる。汚染を防ぎ、円滑に排水する方法について学ぶ。室内空気を調整する設備が空調設備である。温度や湿度、清浄度を調整して室内に供給する。建築の規模などに応じた方法を学び、省エネルギーについて考える。建物に電気を受電し、各使用箇所へ配電する電気設備は、コンセント設備や情報通信設備など、建築物内で使用する電化製品の増加や情報化の進展により、重要度が増してきている。人やモノを運ぶ搬送設備、防火や避難のための防災設備についても学び、快適で安全な建築環境の形成に資する建築設備に対する理解を深める。</p> <p>【SDGs：6, 7, 9, 11, 12, 13】</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① 建築設備学の概要、環境とエネルギー ② 給排水設備（1）給水設備 ③ 給排水設備（2）給湯設備 ④ 給排水設備（3）排水・通気設備 ⑤ 給排水設備（4）衛生器具設備 ⑥ 給排水設備（5）ガス設備 ⑦ 空調設備（1）空調 ⑧ 空調設備（2）空調システム ⑨ 空調設備（3）熱源方式 ⑩ 空調設備（4）空調装置 ⑪ 空調設備（5）省エネルギー ⑫ 電気設備（1）受変電設備 ⑬ 電気設備（2）照明設備、情報通信設備 ⑭ 搬送設備 ⑮ 防災設備 ⑯ 定期試験 		
予復習等	<p>【予習】テキストの予習を行うこと。 【復習】復習を通じて理解を深め、次の講義に臨むこと。</p>		
評価方法	出席状況・授業態度・提出物30%、定期試験70%		
履修条件	なし 【領域間単位互換科目】他領域の受講者は建築環境学を同時に受講すること		
教科書	学芸出版社「図説 建築設備」 村川三郎監修、芳村恵司・宇野朋子編著		
参考書	適宜、資料を配布		

科目名	インテリアデザイン論 Theory of Interior Design	単位数	2
		必選区分	ID選択
開講学科	デザイン環境学科（1年後期）	科目区分	講義
担当者	加藤 祥子	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	人間が主に生活の場とする室内空間を、生活する人間の立場で捉え、計画する。インテリアという概念が発生、成立した歴史を学ぶ。また、インテリアは多様な構成要素が相互に関連し合った集合体であり、各要素を理解し、インテリアを計画するための知識を修得する。人間の立場から室内空間のあり方を考える。		
授業概要	<p>「インテリア」とは、西洋で成立した概念を輸入したものであり、まず、その成立した背景を知る。建築の内部空間としてのインテリアは、多様な要素から構成されている。固定したもの、動かせるものと設備、インテリア装備・アクセサリーの三段階に分け、それぞれについて、壁・床・天井・開口部、家具・照明・設備、アクセサリー・グリーンなどの各要素を、実際のインテリア空間を通じて理解する。また、インテリアの設備である照明の計画・制作を演習する。</p> <p>【SDGs：9, 11, 12】</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① インテリア概念の成立 ② インテリアの構成要素 ③ 壁・床・天井（1） ④ 壁・床・天井（2） ⑤ 開口部（出入口・窓）（1） ⑥ 開口部（出入口・窓）（2） ⑦ 家具の形態 ⑧ 家具と人体との関係 ⑨ インテリアの材料・素材 ⑩ インテリアの設備 ⑪ インテリア照明の計画 ⑫ インテリア照明の制作 ⑬ インテリアアクセサリー ⑭ インテリアの緑化 ⑮ インテリア照明の成果発表 ⑯ 定期試験 		
予復習等	<p>【予習】生活の中で接する様々な空間、それらを構成するインテリアをよく観察すること。</p> <p>【復習】配布する資料を復習し、インテリア設計に必要な知識を深めること。</p>		
評価方法	出席状況・授業態度20%、レポート・提出課題・定期試験80%		
履修条件	制作に必要な材料費等は各自で負担		
教科書	適宜、資料を配布		
参考書	適宜、資料を配布		

科目名	グラフィックデザイン I Graphic Design I	単位数	2
		必選区分	VD必修
開講学科	デザイン環境学科（1年後期）	科目区分	演習
担当者	井口 仁長	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	文字に関する基本的な知識や文字を使ったいろいろな表現（タイポグラフィ）を知り実践できること、シンボルマークやピクトグラムといった「絵文字」に関する基本的な知識を身につけること、身の回りにあるモノを観察し気付いたことを自分のものづくりに応用できること、言葉や言語に頼らず内容の伝達を直感的に行うための表現を知り実践できること、利用者が求めているものを考察し思いやりをもって制作できること、道具を大切に扱い丁寧な制作ができることを目的とし、グラフィックデザインを行ううえでの基礎となる技術や知識の習得を到達目標とする。		
授業概要	<p>【担当者の実務経験：公共施設および企業のVI設計や広報物作成の経験あり。】</p> <p>私達はたくさんのデザインに囲まれて生活をしています。グラフィックデザインとは、情報を伝達する手段として、文字／画像／色などを視覚的に構成することです。この授業では文字を的確にかつ美しく構成するタイポグラフィや、絵文字・サインと呼ばれる視覚記号に関する簡単な講義と、それぞれのリサーチや演習を通じてグラフィックデザインとは何かを考えます。パソコンは使わず手で書くことが主な制作手段となるため、手先の器用さや画材等を汚さずに扱う丁寧さも求められます。</p> <p>【SDGs：9, 12, 17】</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① グラフィックデザインについて ② 図形のバランス ③ 生活の中にある文字 ④ 生活の中にある色 ⑤ シンボルマークとロゴタイプ(1) 制作 ⑥ シンボルマークとロゴタイプ(2) 発表 ⑦ 文字組の基本 ⑧ レイアウトの基本(1) 制作 ⑨ レイアウトの基本(2) 発表 ⑩ ピクトグラムによる表現 ⑪ 施設で利用されるピクトグラム(1) 制作 ⑫ 施設で利用されるピクトグラム(2) 発表 ⑬ 街や施設のサインシステム ⑭ 学内サインシステムの提案(1) リサーチ ⑮ 学内サインシステムの提案(2) 中間チェック ⑯ 学内サインシステムの提案(3) 発表 		
予復習等	<p>【予習】身の回りにあるたくさんのデザインされたものを意識して見ること。</p> <p>【復習】課題ごとに制作過程を振り返ること。</p>		
評価方法	提出物80%、発表・プレゼンテーション10%、出席状況・受講態度10%		
履修条件	学習規定による。制作に必要な材料費は各自で負担すること。		
教科書	なし。授業ごとに資料を配布する。		
参考書	授業内で適時紹介する。		

科目名	CG演習 Computer Graphics	単位数	2
		必選区分	VD必修
開講学科	デザイン環境学科（1年後期）	科目区分	演習
担当者	宮川 友子	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	<p>学生が二次元CGを作成するために必要な基本的知識とスキルを習得し、各自のアイデアをスムーズにCGにて表現できるようになることが到達目標である。2年次以降に開講されるデジタルデザイン系科目の礎となる科目であるため、情報リテラシーおよびコンピュータリテラシーの向上も図りつつ、デジタルデザインについて幅広い表現を興味・関心を持ち、それを理論的に再構築できるようになることを目指す。</p>		
授業概要	<p>【担当者の実務経験：デザイン事務所にてグラフィックデザイン業務の従事経験あり】</p> <p>本講義では、印刷（DTP）およびWeb用グラフィックを作成するための業界標準アプリケーションソフト、Adobe PhotoshopとIllustratorの基本操作、および、デジタルデザインの基礎的な技術や知識の習得を目指す。この2つのアプリケーションソフトを通じ、ベクタデータとラスタデータの特性を理解し、コンピュータによる二次元表現を行う際に、必要な能力を身につけ、今後の専門科目に繋げていく。</p> <p>【SDGs：8,9】</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① イン트로ダクション ② ベクタデータの編集（1）－色彩と配置 ③ ベクタデータの編集（2）－文字 ④ ベクタデータの編集（3）－線と平面レイアウト ⑤ ベクタデータの編集（4）－ガイドとレイヤー ⑥ ベクタデータの編集（5）－習得試験・実践的演習 ⑦ 成果発表 ～プレゼンテーション～ ⑧ ラスタデータの編集（1）－画像サイズとトリミング ⑨ ラスタデータの編集（2）－パスと切り抜き ⑩ ラスタデータの編集（3）－範囲選択とチャンネル ⑪ ラスタデータの編集（4）－フィルター/効果 ⑫ ベクタとラスタの連携と印刷設定 ⑬ 統合的なデータ編集（1）－課題提示・カンパ作成 ⑭ 統合的なデータ編集（2）－エスキース ⑮ 統合的なデータ編集（3）－本制作 ⑯ 成果発表 ～プレゼンテーション～ 		
予復習等	<p>【予習】CGに関する表現手法を、可能な範囲で調査を行っておくこと</p> <p>【復習】提示された課題に取り組み、各週エスキースにて進捗を報告すること</p>		
評価方法	出席状況・受講態度30%、提出作品・プレゼンテーションによる評価70%		
履修条件	なし。		
教科書	なし。		
参考書	翔泳社 武田英志著「伝わるデザインの授業 一生使える8つの力が身につく」		

科目名	メディアデザイン論 Theory of Media Design	単位数	2
		必選区分	VD必修
開講学科	デザイン環境学科（1年後期）	科目区分	講義
担当者	奥村 和則	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	<p>メディアデザインに関する作品を制作するため、それらで求められる知識の習得を目的とする。講義範囲は多岐にわたり、また随時更新されることもあるため、日頃からのこれらの情報に接しておく必要がある。情報の収集を通し、メディアリテラシーの有り方も考察していく。さらに日常を取り巻くデジタル環境についても理解する必要があるため、マルチメディア検定（ベーシック）同程度の知識の獲得を到達目標とする。</p>		
授業概要	<p>【担当者の実務経験：デザイン事務所にてグラフィック/編集デザイン業務の従事経験あり】</p> <p>メディアデザインとは、静止画・動画・音楽（楽曲）・文（文章）・書籍・通信方法・芸術的表現など様々なジャンルのプラットフォームを横断させながら創り上げていくデザイン表現手法である。現代にみられるこのメディアについて、その役割と仕組みを、事例を通し考察していく。また、メディアデザインと密接に関係しており、社会において重大な役割を果たすマルチメディア・デバイスやIoT（Internet of Things）についても取り上げ、考察する。</p> <p>【SDGs：4,8,9,12】</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① イン트로ダクション ② メディアデザインとマルチメディア（1）－歴史変遷 ③ メディアデザインとマルチメディア（2）－IoT装置 ④ メディアデザインとマルチメディア（3）－社会変化 ⑤ メディアデザインとマルチメディア（4）－法・特許 ⑥ メディアデザインとマルチメディア 総括 ⑦ コンピュータによる表現の変化 ⑧ 紙メディアのデザイン ⑨ 映像メディアのデザイン ⑩ デザイン戦略とメディア ⑪ 広告にみるメディアデザイン ⑫ コミュニケーションデザイン ⑬ メディアアートとインタラクティブ性 ⑭ メディアリテラシーとテレビ放送 ⑮ メディアデバイスとしての携帯電話の変遷 ⑯ 定期試験 		
予復習等	<p>【予習】事前配布されるレジュメに取り組むこと</p> <p>【復習】講義内で不明瞭な内容を調査し、レジュメに追記すること</p>		
評価方法	出席状況・受講態度20%、定期試験70%、提出物10%		
履修条件	なし		
教科書	CG-ARTS協会「入門マルチメディア」		
参考書	授業内で紹介する		

科目名	イラストレーション I Illustration I	単位数	2
		必選区分	VD必修
開講学科	デザイン環境学科 (1年後期)	科目区分	演習
担当者	小川 直茂	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	本授業では、ノンバーバル・コミュニケーション (非言語による情報伝達) の代表的事例であるイラストレーションについて、その表現のための基礎的な知識・技術を習得することを目的とする。観察力/発想力/描写力の修練と向上に加えて、実社会におけるさまざまなイラストレーションの用途を把握し、適切な情報伝達の観点に立って伝えるべき情報の性質に対応できる幅広いイラストレーション表現能力を身につけることを到達目標とする。		
授業概要	【担当者の実務経験:メディア系企業にてグラフィックデザイン/編集デザイン/イラストレーション制作業務の従事経験あり】 幅広いイラストレーション表現能力を習得する観点から、表現対象 (具象～抽象) および表現手法 (写実的表現～誇張的表現) の両要素に対してバランスを考慮した授業内容を設定している。授業前半の基礎課題では、人物をはじめとして、植物/動物/人工物/無形物に至る身近なモチーフを題材に取り上げ、観察力と発想力の双方を必要とする課題制作に取り組む。授業後半では、実社会を想定したイラストレーション制作としてキャラクターデザイン/表紙・挿絵の2課題に取り組み、実務経験にもとづく実践的な指導によって、デザイン制作の一環としてのイラストレーション表現のあり方について体験的に学習する。なお、本授業の課題は全てアナログ画材を用いて制作する。 【SDGs : 9, 12】		
授業計画	① ガイダンス、画材探求 ② 基礎課題:人物を描く (1) :デフォルメ/自己紹介 ③ 基礎課題:人物を描く (2) :老若男女の表現 ④ 基礎課題:人物を描く (3) :喜怒哀楽の表現 ⑤ 基礎課題:自然物を描く ⑥ 基礎課題:人工物を描く ⑦ 基礎課題:無形物を描く ⑧ 発展課題:キャラクターデザイン (1) ⑨ 発展課題:キャラクターデザイン (2) ⑩ 発展課題:キャラクターデザイン (3) ⑪ 発展課題:キャラクターデザイン (4) ⑫ 発展課題:表紙・挿絵のイラストレーション (1) ⑬ 発展課題:表紙・挿絵のイラストレーション (2) ⑭ 発展課題:表紙・挿絵のイラストレーション (3) ⑮ 発展課題:表紙・挿絵のイラストレーション (4) ⑯		
予復習等	【予習】授業で取り上げる課題テーマについて、あらかじめ先行事例の調査を行っておくこと。 【復習】授業時に示した課題について、授業時間外の制作を経て指定の時期までに提出すること。		
評価方法	提出作品による評価:80%、受講態度による評価:20%		
履修条件	課題制作に必要な用具・材料費は受講生の自己負担とする。		
教科書	なし。授業回ごとに必要な資料を配付する。		
参考書	『みんなのイラスト教室』/著:中村佑介/出版:飛鳥新社□		

科目名	情報デザイン論 Theory of Information Design	単位数	2
		必選区分	VD必修
開講学科	デザイン環境学科 (1年後期)	科目区分	講義
担当者	神谷 勇毅	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	本授業では、Webサイトの構築と運営について学ぶ。作るのではなく、創るWebサイトとはどのようなものかについて考えていく。ユニバーサルデザイン、アクセシビリティなどの配慮をしたWebサイトの構築に向け、HTML、CSSについての知識、技術を座学と演習とで学習する。本授業の履修の成果とその発展においては、CG-ARTs協会 Webデザイナー検定 (ベーシック) の資格取得に必要な基礎知識の獲得をねらいとする。		
授業概要	Webサイトは「情報発信」を担うツールである。情報発信とはどのようなものか、「効果的な情報発信」をキーワードとして、座学においてはアクティブラーニング (グループベースでのディスカッションおよびプレゼンテーション) を取り入れた進行を行う。 【SDGs : 4, 12, 17】		
授業計画	① 座学 授業導入ーWebサイトの役割とは 日常的にどのような場面で活用する? ② 座学 情報発信とそのコンテンツ ※授業レポート有 ③ 座学 情報発信における「知的財産権」の理解 ※授業レポート有 ④ 座学 Webサイトの構成言語とCSS ※授業レポート有 ⑤ 演習 HTMLの第一歩 HTMLの構造を理解する ⑥ 演習 画像配置、表組、ハイパーリンクを効果的に組み合わせる ⑦ 演習 CSSとは何か?Webデザイン、レスポンシブルを考える ⑧ 演習 やりたいことを楽して実現する 様々なサービスとの連携 ⑨ ここまでの振り返り 知識・技能の整理 ⑩ 演習 Webサイトの制作 企画 ⑪ 演習 Webサイトの制作 デザイン ⑫ 演習 Webサイトの制作 アクセシビリティ、ユニバーサルデザイン ⑬ 演習 Webサイトの制作 コーディング ⑭ 座学 Webサイトのメンテナンス サイトは“いきもの”である ※授業レポート有 ⑮ まとめ ⑯		
予復習等	【予習】指定教科書の使用予定範囲について読む プレゼンテーションの準備 【復習】その授業回で学習した内容の振り返りと技術の確認		
評価方法	座学回の最後に課す「授業レポート」(20%)、最終課題作品 (50%) 座学時のグループワークおよびプレゼンテーション (30%) 授業レポートに対してのフィードバックは、レポート出題回の次の授業の中でそれを織り交ぜた話を行うことで代える		
履修条件	なし		
教科書	技術評論社「HTML&CSSとWebデザインが1冊できちんと身につく本[増補改訂版]」 ISBN:978-4297125103		
参考書	CG-ARTs検定協会「入門Webデザイン 改定第四版」		

科目名	認知情報処理 Cognitive Information Processing	単位数	2
		必選区分	VD選択
開講学科	デザイン環境学科（1年後期）	科目区分	講義
担当者	神谷 勇毅	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	<p>「情報処理」という言葉は、コンピュータ技術の発展ともなって普及してきたものである。情報理論も最終的には、人間の情報処理理論に学ばなければならないことが多数あることが指摘されている。実際に、我々は日常生活において、じつに様々な情報処理を無意識のうちに繰り返し生活をしているのである。本講義では、日常生活という非常に身近な事例を挙げ、認知と情報処理との接点、その不思議に迫り、認知情報処理についての理解を深めていく。</p>		
授業概要	<p>本授業においてはアクティブラーニング（グループベース、教室全体でのディスカッションおよびプレゼンテーション）を取り入れた進行を行う。</p> <p>【SDGs：4,9】</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① 授業導入 「情報」とは何か？情報の価値とは ② 情報処理 処理の理解～その処理は果たして「最適」なのか？ ③ コンピュータの発達の歴史、インターネットの歴史と情報処理の関係 ④ 「認知」とは何か？意識ある認知と無意識の認知 ⑤ 認知のためのコミュニケーション ⑥ ヒトの感覚あれこれ 情報を取りに行くのか、受け取るのか 情報の取捨選択 ⑦ 視覚過程と理解過程 ⑧ これまでの振り返り ⑨ CASVEサイクル ⑩ メタ認知、その重要性 ⑪ 百聞は一見に如かず～一見の認知 一見記憶はどこまで信用できるか？ ⑫ 実記憶と虚記憶 記憶のメカニズムに迫る ⑬ 認知と情報処理 この双方の繋がり ⑭ 日常生活においての認知～その活用と適応 ⑮ まとめ、発表 ⑯ 		
予復習等	<p>【予習】配信資料を読み、知らない語についてまとめる</p> <p>【復習】その授業回で学習した内容の振り返り</p>		
評価方法	<p>毎回の授業レポート（55%）※11回を予定 レポートは授業内課題に代える場合もある 最終課題および発表（30%）、平常点、授業の参加度（15%） 授業レポートに対してのフィードバックは、レポート出題回の次の授業の中でそれを織り交ぜた話を行うことで代える</p>		
履修条件	心理学を受講することが望ましい		
教科書	指定する教科書は無い。授業において適宜資料を配信する。		
参考書			

科目名	ビジュアルリテラシー Visual Literacy	単位数	2
		必選区分	VD選択
開講学科	デザイン環境学科（1年後期）	科目区分	講義
担当者	神谷 勇毅	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	<p>我々は、主に「視覚」から膨大な情報を得ている。視覚からの情報を無意識に解析し行動することもある。情報を伝える（伝達）するためには、どのような視覚情報を提示すればよいか。より強く伝えるためには、どのような提示方法が効果的だろうか。情報を受け取る側は、そこから何を読み取るべきか。時に、意図とは違う情報が伝わってしまうことも起こる。なぜ意図とは違う情報が伝わるのだろうか。</p> <p>ビジュアルリテラシーは、現代社会において必須ともいえる能力の1つである。本授業では、ビジュアルリテラシーに対する理解を深め、今後効果的にその能力を活用していくための知識、技能について学習する。</p>		
授業概要	<p>本授業においてはアクティブラーニング（グループベースでのディスカッションおよびプレゼンテーション）を取り入れた進行を行う。</p> <p>【SDGs：4,9】</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① 授業導入 ビジュアル（Visual）とリテラシー（Literacy）その背景 ② リテラシーとは何か どの時代にもリテラシーは存在するのか ③ ビジュアルリテラシーとは何か その定義と変遷 ④ ビジュアルリテラシーの可能性 ⑤ 近代におけるビジュアルリテラシーとその活用と展望 ⑥ 認知のなかのビジュアルリテラシー ⑦ 伝えよう、それが正しく伝わるか？ 正しく伝えるための工夫とは ⑧ 前半のまとめ ⑨ 図書館情報学とビジュアルリテラシーの理解 ⑩ 様々な分野におけるビジュアルリテラシー①芸術との接点 ⑪ 様々な分野におけるビジュアルリテラシー②STEMとの接点 ⑫ 様々な分野におけるビジュアルリテラシー③社会科学との接点 ⑬ 創造とビジュアルリテラシー ⑭ 伝えるを創るために何が必要か ⑮ まとめ、発表 ⑯ 		
予復習等	<p>【予習】指定教科書の使用予定範囲について読む、プレゼンテーションの準備</p> <p>【復習】その授業回で学習した内容の振り返り</p>		
評価方法	<p>毎回の授業レポート（55%）※11回を予定 最終課題および発表（30%）、平常点、授業の参加度（15%） 授業レポートに対してのフィードバックは、レポート出題回の次の授業の中でそれを織り交ぜた話を行うことで代える</p>		
履修条件	なし		
教科書	勁草書房「大学生のためのビジュアルリテラシー入門」原木 万紀子（著） ISBN:978-4326050192		
参考書			

科目名	コミュニケーションデザイン論 I Theory of Communication Design I	単位数	2
		必選区分	VD選択
開講学科	デザイン環境学科（1年後期） [岐阜学関連科目]	科目区分	講義
担当者	奥村 和則	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	<p>ヴィジュアルコミュニケーションにおいて、画像・イメージを補完し、コンセプトをより明快にするため、キャッチコピーやフレーズといったバーバルコミュニケーションの能力も求められる。</p> <p>本講義では、実践的ヴィジュアルプレゼンテーションを視野に、キャッチコピーの作成方法から、イメージとの関連性など、視覚的訴求力を高められることを目標とする。</p>		
授業概要	<p>【担当者の実務経験：デザイン事務所にてグラフィック／編集デザイン業務の従事経験あり】</p> <p>メディアは多様かつ大容量へと変化し、もの・ことの情報を「探し・まとめ・伝える」ことは、一般的になってきているが、多くの情報受益者は、より効果的な情報発信を求めているようになってきている。本講義では、効果的な情報収集からその伝達・表現方法の修得を目指す。</p> <p>特に、ヴィジュアルプレゼンテーション制作時におけるコンセプトの明示方法を中心に、コピー・イメージの作成方法から、取材や調査を伴う客観的事実の論述まで、視覚的に訴求力を高められるように展開していく。</p> <p>【SDGs：4, 8, 9, 12】</p> <p>【岐阜学関連の授業回：⑩～⑯】</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① インTRODクシヨン ② セルフプロモーション（コピー概論） ③ セルフプロモーション（自己分析） ④ セルフプロモーション（調査・インタビュー） ⑤ セルフプロモーション（コピー） ⑥ セルフプロモーション（コピー・エスキース） ⑦ セルフプロモーション（ヴィジュアル） ⑧ セルフプロモーション（ヴィジュアル・エスキース） ⑨ セルフプロモーション（カンパ） ⑩ 成果発表 ～プレゼンテーション～ ⑪ クリエイティブ・コピー（1） ⑫ クリエイティブ・コピー（2） ⑬ クリエイティブ・イメージ（1） ⑭ クリエイティブ・イメージ（2） ⑮ クリエイティブ・テスト ⑯ 成果発表 ～プレゼンテーション～ 		
予復習等	<p>【予習】情報伝達方法および技術について、事前に調査を行っておくこと</p> <p>【復習】提示された課題に取り組み、各週エスキースにて進捗を報告すること</p>		
評価方法	出席状況・受講態度30%、提出作品・プレゼンテーションによる評価70%		
履修条件	なし		
教科書	なし		
参考書	宣伝会議「広告コピーってこう書くんだ!読本」		

科目名	課題研究 Seminar	単位数	2
		必選区分	選択
開講学科	デザイン環境学科（1年後期）	科目区分	演習
担当者	生活デザイン学科教員	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	<p>2年次の地域実践演習（卒業研究）を円滑に行うための予備段階として、ゼミ形式での授業の進め方を体験し会得するとともに、世の中の事物に対し自ら問題意識を持ち解決する力を習得することを目的とする。また、長期間にわたって計画立てて研究・制作ができる力を身に付けることを目標とする。</p>		
授業概要	<p>【担当者の実務経験：2、4～6、8の研究室は実務経験のある講師が担当】</p> <p>デザイン環境学科の各教員に少人数の学生を配属し、教員の指導のもとで関心のあるテーマについて、研究、制作、発表、または専門にかかわる文献や外書の輪読などを行う。教員の専門分野についてガイダンスを行った後、受講者の希望と教員との相談をもとに、配属研究室を決める。所属する専修以外の研究室を選択することも可能である。1年前期の履修科目の成績で配属研究室を調整することがある。</p> <p>【SDGs：1, 9, 11, 12, 17】</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① 担当教員と話し合って研究テーマを設定して、研究活動、制作活動を行う。 ② (1)「教養演習」でガイダンスを実施後、希望研究室調査書を提出する。 ③ (2)調整の必要がなければ、配属を掲示発表する。 ④ (3)調整が必要な場合は、調整後配属を掲示発表する。 ⑤ 研究室 ⑥ 1. ファッション造形・デザイン研究室 ⑦ 2. 材料学研究室 ⑧ 3. ファッションクリエイト研究室 ⑨ 4. 建築・環境デザイン研究室 ⑩ 5. 建築・地域デザイン研究室 ⑪ 6. 建築構造・材料研究室 ⑫ 7. インテリアデザイン研究室 ⑬ 8. グラフィックデザイン研究室 ⑭ 9. メディアデザイン研究室 ⑮ 10. 情報デザイン研究室 ⑯ 		
予復習等	<p>【予習】担当教員の指導による。</p> <p>【復習】担当教員の指導による。</p>		
評価方法	研究、制作過程や成果を判定し、担当教員が決定する。		
履修条件	選択科目であるが、2年次の卒業研究を円滑に進めるためには、受講することが望ましい。		
教科書	担当教員による。		
参考書	担当教員による。		